

外来生物法とオオハンゴンソウ、オオカワジシヤなどの駆除について

岩手高校

2026.5.13 盛岡市動物公園

岩手県立大学 渋谷晃太郎

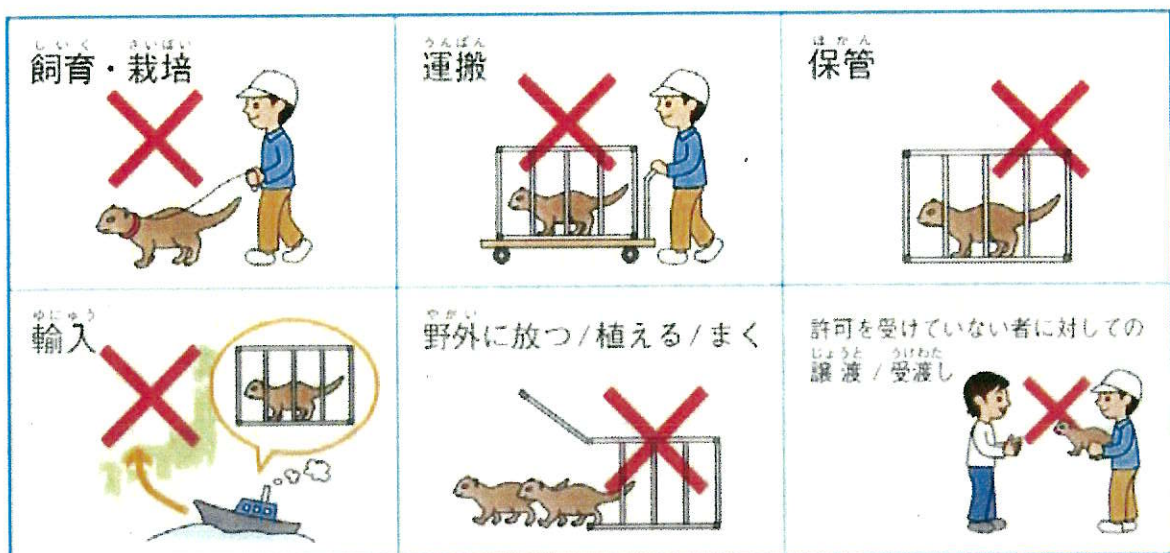
特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（外来生物法）

- 目的 特定外来生物による被害（生態系、人の生命・身体、農林水産業）の防止、生物多様性の確保。
- 対象：海外から持ち込まれた生態系や農林水産業に被害を及ぼす「特定外来生物」
- 飼育、栽培、運搬、輸入、野外への放出を原則禁止
- 違反すると重い罰則（最大で個人3年以下の懲役または300万円以下の罰金、法人1億円以下の罰金）が科される

特定外来生物指定種数

- 哺乳類 25 タイワンザル アカゲザル ヌートリア タイワンリス **アライグマ** マングース シカ族 キョン
- 鳥類 7 カナダガン ガビチョウ ソウシチョウ
- 爬虫類 22 カミツキガメ **アカミミガメ** グリーンアノール タイワンスジオ
- 両生類 18 オオヒキガエル **ウシガエル** オオサンショウウオ属
- 魚類 26 ガー科の全種 ヨーロッパナマズ カダヤシ **ブルーギル** **オオクチバス** ナイルパーチ **パイクパーチ**
- 昆虫類 27 クビアカツヤカミキリ **セイヨウオオマルハナバチ** ヒアリ アルゼンチンアリ アカカミアリ ツマアカスズミバチ
- 甲殻類 6 ウチダザリガニ **アメリカザリガニ** モクズガニ族の全種 (モクズガニを除く)
- クモ・サソリ類 7 **ゴケグモ属の全種**
- 軟体動物 5 カワヒバリガイ族 ニューギニアヤリガタウズムシ
- 植物 19 **ボタンウキクサ** **オオキンケイギク** **オオハンゴンソウ** **アレチウリ** **オオカワジシャ**
- 計 162 <https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list.html>

外来生物法で規制されていること



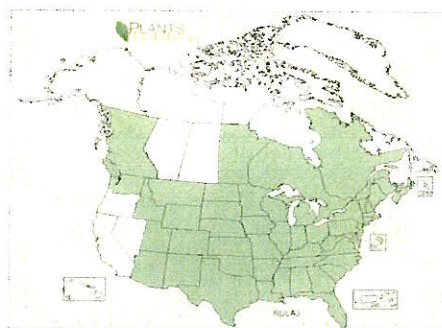
岩手県内の特定外来生物

- 岩手県内には、これまで
- アメリカミンク、アライグマ、ウシガエル、オオクチバス、ブルーギル、セイヨウオオマルハナバチ、セアカゴケグモ、アレチウリ、オオキンケイギク、**オオハンゴンソウ**、**オオカワジシャ**、ボタンウキクサの12種
- 条件付き特定外来生物
アメリカザリガニ、アカミミガメ の2種

アライグマの生息を確認 今後の拡大が懸念

オオハンゴンソウとは？

- 北アメリカ原産
- 日本には明治中期に園芸植物として渡来
- 近年、日本中に分布を拡大している



北米大陸の分布状況

(出典:アメリカプランツデータベースより)

<http://plants.usda.gov/java/profile?symbol=RULA3>



日本国内の分布状況

(出典:環境省外来種データベースより)



- ・2~3mの高さに成長。
- ・7月中旬~9月初旬に黄色い目立つ花を咲かせる。
- ・種と地下茎で増える。



種は土の中で何年も生き続ける。
(土壌シードバンクを形成する)

オオハンゴンソウの種



能代市風の松原植物調査HPより

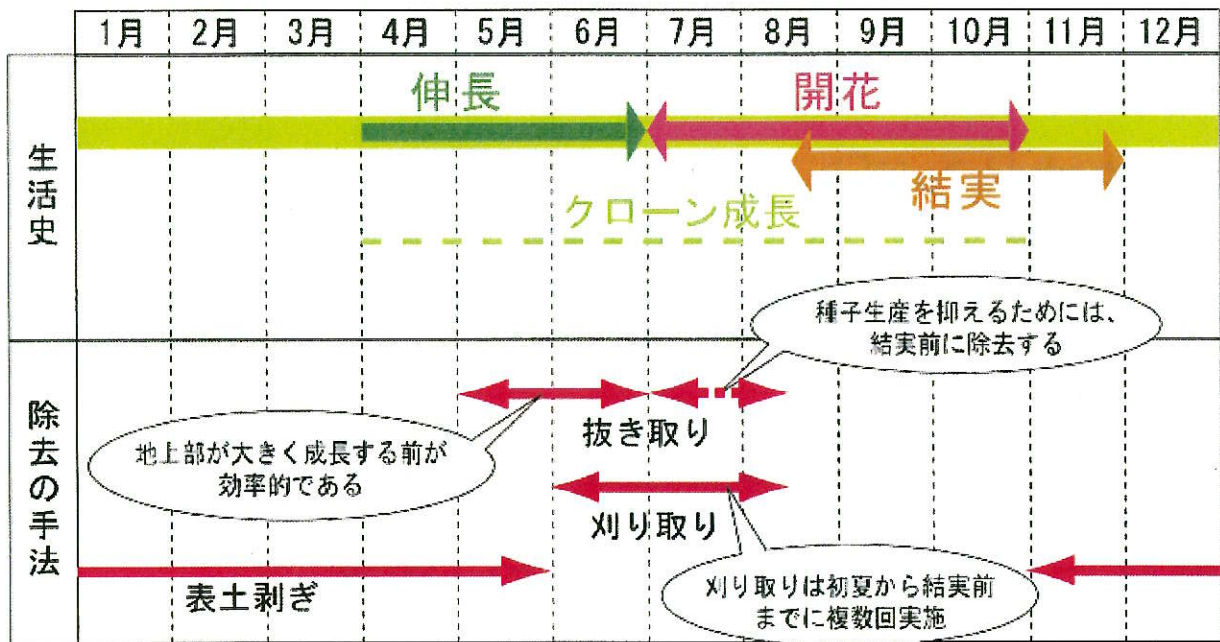
オオハンゴンソウの問題点

① オオハンゴンソウは地下茎や埋土種子（土壌シードバンク）でも増殖する繁殖力旺盛な植物で、一度分布すると駆除が非常に難しい植物です。

② 寒冷な土地や湿性環境を好む植物で、ZOOMOの湿った場所はオオハンゴンソウの繁殖に適する環境を有しています。

駆除方法

- 時期: 花が咲く前（6月～7月）がベスト。遅くとも種ができる前までに実施する。
- 方法: スコップや三叉鍬などで根の周囲を掘り起こし、地下茎を含めて根こそぎ引き抜く。
- 処理: 抜いた個体は、その場（アスファルト上など）で数日間天日干しして完全に枯らしてから、ゴミ袋に入れて燃えるゴミとして廃棄する。
- 継続: 1回では根絶できないため、毎年継続して抜き取りを行う。
- 注意: 生きたまま持ち運ぶことは法律で禁止されているため、現場から離れた場所へ移動させない。



図Ⅲ.13 オオハンゴンソウの生活史と各対策手法の適期(案)

オオカワジシャ

概要：オオカワヂシャは、ゴマノハグサ科の特定外来生物に指定されている**多年草**。**ヨーロッパからアジア北部が原産**で、日本では河川や水路、湿地などの水際に生育する。

特徴:高さ30cmから100cm（最大で160cmにもなることも）。茎は直立または斜めに伸び、無毛。葉は細長く、茎を抱くようにつく。縁には細かいギザギザがあるもの、全縁に近いものもある。淡い紫色から白色の小さな花を4月から9月頃まで咲かせる。オオイヌノフグリの花に似ている。1株で1万以上の大量の種子を作り、高い発芽率（80%以上）を持つ。地下茎によっても繁殖し、非常に繁殖力が強い。在来種の「カワヂシャ」と形態がよく似ているが、オオカワヂシャの方が全体的に大きく、在来種のカワヂシャは絶滅危惧種に指定されている。



オオカワヂシャの駆除方法

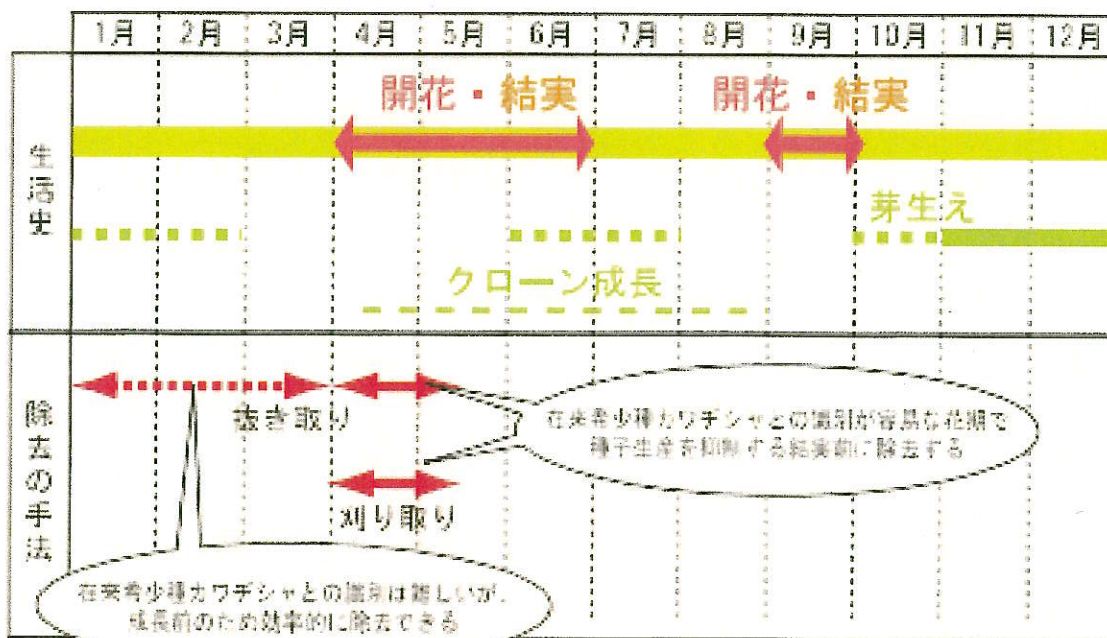
強い繁殖力と特定外来生物であることから、適切かつ継続的に行うことが重要。種子ができる前の4月～5月中旬に実施する。

オオカワヂシャは大量の種子を作るため、花が咲き、種子ができる前に駆除することが最も効果的。種子が落ちてしまうと、水流に乗って拡散し、駆除が困難になる。

根から抜き取る: 茎や根茎の断片からも再生するため、できる限り根から完全に抜き取ることが重要。スコップや根掘りなどを用いて、根や底泥ごと剥ぎ取るようにすると効果的。

刈り取り: 抜き取りが難しい場合や、個体数が多く労力が大きい場合は、種子をつける前に地際から刈り取る。ただし、根茎が残ると再生する可能性があるため、複数年継続する必要がある。刈り取り作業の際には、茎や根茎の断片が下流に流れて広がらないよう、ネットやオイルフェンスを張るなどの対策も有効。

継続的な駆除: 土壌中に種子が蓄積されている可能性があるため、一度の駆除で根絶することは難しいです。数年間発芽が見られなくなるまで、継続的な駆除活動が求められます。



図Ⅲ.9 オオカワヂシャの生活史と対策手法の適期(案)

